

令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな心と主体的に生きる力を養い、自立と社会参加を実現できる人間を育成する。

2 学校の特徴

本校は、肢体不自由養護学校として県内で最も早く設置された学校である。現在、小学部、中学部及び高等部に在籍する肢体不自由のある児童生徒並びに高等部に在籍する軽度知的障害のある生徒が共に学んでいる。通学して教育を受けることが困難な児童生徒のために、教員を派遣して教育を行う訪問教育を行っている。肢体不自由のある児童生徒の障害の状態像に合わせた校内環境の充実、給食の食形態の工夫、医療的ケア等を実施するとともに、通学支援としてスクールバスの運行と寄宿舎を設置している。

児童生徒一人一人の障害の状況や教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、きめ細かな指導・支援に努めるとともに、生きる力を育み、学校生活において学んだ知識や技能を日常生活においても活かせるよう授業実践に取り組んでいる。また、各種行事や校外学習等を通して社会経験の拡充を図ったり、関係機関と連携したりしながら、児童生徒一人一人の卒業後の豊かな生活を目指したキャリア教育の充実に努めている。さらに、交流及び共同学習（居住地校交流、学校間交流）を行い、児童生徒の人間関係づくりと地域生活支援を積極的に進めている。

3 学校の現状と課題

本校では、令和6年1月に行った学校課題研究アンケートで、多くの教員が自立活動についての確かな実態把握や目標の立案、評価が難しいと感じていることが分かった。また、自立活動の授業の多くは個別で行われており、授業の目標設定などは授業者に委ねられている。授業者は指導目標の達成に向けて指導方法を考え実践し、児童生徒の変容から授業の改善を行っているが、目標そのものの妥当性や手立ての何が効果的でその変容につながったのかが不明確であるなど、教員間で適切に検討できていないのではないかと考えられることから、昨年度から2か年計画で「主体的に学ぶ意欲を育む自立活動の指導」を主題に、研究に取り組んでいる。

自立活動の指導においては、適切な実態把握を行えるようになることや、課題をしっかりと捉えた目標設定（目標・手立て）ができるようになること、また、評価をもとに授業改善を続けていく仕組みが教員間で共有され、個々の教員が実践していくことが求められる。そのためにも、発達段階等を踏まえて児童生徒の実態を丁寧に把握し、より客観的な目標を設定するとともに、内部人材を活用した研修会を通して、自立活動を指導する上での基礎的な資質・能力を培い指導実践につなげていくことで、教員個々の指導の充実に努めることができるのではないかと考える。

4 学校教育計画

項 目		目 標・方針及び計画		
1	学習活動	教育課程編成	目標	○既習内容や3観点を踏まえた目標の立案、評価により、学習活動の充実を図る。
		計画	○既習内容の確認がしやすいように、学習の記録の様式を見直す。 ○3観点を踏まえ、評価の書き方を共通理解したり、年間指導計画の目標を見直したりする。	
	教科指導 (小学部)	目標	○基本的な生活能力を高めるとともに、友達や教師との関わりを広げ、自分から活動できる児童を育てる。	
		計画	○児童の障害や健康状態、教育的ニーズを的確に把握し、学習形態や指導・支援の在り方を工夫し、学習内容の充実に努める。 ○生活力を高めるために、生活科の基礎的・基本的な内容を重視しながら、教科等横断的な視点での授業実践を行う。 ○様々な体験活動の充実を図り、学習に対する興味・関心を大切にしたい学習指導を行うとともに、周囲の人や物に積極的に関わっていく態度や豊かな感情を育てる。	
	教科指導 (中学部)	目標	○人との関わりや生活経験の拡大を図るとともに、主体的に学習や活動に取り組む生徒を育てる。	
		計画	○必要な情報を学部全体で共有しながら、PDCAサイクルに基づいた授業実践を行い、教科等横断的、系統的な指導の充実に努める。 ○生徒同士で話し合ったり、認め合ったりする対話的な活動、自ら見通しをもって取り組む主体的な活動を通して学びが深まるよう、効果的な学習形態や指導方法を工夫する。 ○生徒の障害の状況や教育的ニーズを的確に把握して、体力や健康状態に応じた学習方法や学習環境を工夫する。	
	教科指導 (高等部)	目標	○自立と社会参加に向けて、人との関わりの中で社会生活能力を高めるとともに、意思をもち主体的に物事に取り組む生徒を育てる。	
		計画	○生徒の実態の捉え方や進路指導の進め方の知識を高め、生徒一人一人の障害に基づく困難を捉え、現在及び卒業後に必要とされる資質・能力を高められるように、担当者間で連携して指導に当たる。 ○集団活動や人と関わる場面を設定し、自分の考えを広げたり、他者の意見を受け入れたりする経験を積むことで、社会性の伸長を図り、自ら周囲に働き掛けようとする態度を育てる。	
	教科等指導 (訪問教育)	目標	○児童生徒の能力や個性を大切にして、年齢やニーズに応じた支援を行い、健康の保持・増進に努めるとともに、人との関わりを広げ、自ら取り組もうとする意欲を育てる。	
		計画	○児童生徒の所属する学部との連携を深め、生活年齢と発達段階に配慮した学習内容の精選と教材の工夫に努め、訪問教育の充実を図る。 ○家族や医療機関との連携を密にするとともに、ICT機器や遠隔教育システムを活用して通学生と合同で学ぶ機会を設け、訪問教育の充実を図る。	

		研 修	目 標	○児童生徒の主体的に学ぶ意欲を育む自立活動の充実を図る。
			計 画	○少人数グループを編成し、対象児童生徒を決めて事例研究を行い、適切な指導、支援の在り方を検討する。 ○内部人材を活用し、自立活動の指導力向上につながる研修会を実施する。
		I C T 機器活用 重点1	目 標	○校内会議や授業実践等に関する資料を共有できるように、教員のICT機器活用能力の向上を図る。
			計 画	<u>○校内会議や授業づくりに関する資料や教材を教員間で情報共有したり、内部人材を活用したりして教員のICT機器活用能力向上を図るように努める。</u>
2	学 校 生 活	保健管理 重点2	目 標	○児童生徒が健康、安全に学校生活を送れるよう実態に応じた健康管理の充実に努める。 ○事故を未然に防止する視点をもつとともに、緊急時の対応における救急体制の整備と、対応訓練の充実に努める。 ○医療的ケア等を安全・安心に実施する。
			計 画	<u>○毎日の健康管理や保護者との情報交換により児童生徒の生活習慣や健康状態を把握して、基本的生活習慣の育成や個に応じた健康の保持増進に努める。</u> ○インシデント・アクシデントへの気付きを促す取組により安全意識を高め、事故を未然に防ぐ視点で学習環境の改善に努める。また、緊急対応アクションカードを用いて緊急対応訓練を行う。 ○医療的ケアの実施体制及び、医療機関との連携を含めた緊急体制を教職員に周知する。
		生徒指導	目 標	○生徒指導上の問題に的確に対応することができる。 ○災害時における組織的対応力を高める。
			計 画	○ネットトラブルやいじめ等、社会における生徒指導上の諸問題の実情を情報収集し、全教職員で共通理解を図り対応や指導を行う。 ○危機管理マニュアルなどで、教職員全体で共通理解を図り、より実践的に避難訓練等を行う。
3		進路支援	目 標	○進路指導の充実を図る。 ○進路啓発の取組の充実を図る。
			計 画	○小学部、中学部、高等部が連携して作成した、各年齢段階に応じて整理した進路に関する学習や情報をまとめた「進路の手引き」を活用し、系統的に取り組むようにする。 ○個に応じた進路選択・決定ができるように、必要な福祉・進路情報を収集し、提供する。 ○関係機関と連携し、企業及び福祉事業所の開拓を積極的に行う。
4	特 別 活 動	特 別 活 動	目 標	○児童生徒会活動の活性化を図る。
			計 画	○学校行事や児童生徒会執行部が企画する行事、各専門委員会の活動を通じて、全校児童生徒が協力して活動できるようにする。

5	その他	学校 図書室	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○読書環境を整備する。 ○図書に親しむ機会を増やし、読書活動を推進する。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ○各学部の児童生徒が利用しやすいように図書室の環境を整備する。 ○読み聞かせや読書活動を促して、図書に親しむ機会を設ける。
		寄宿舎	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の実態に応じた生活支援を行うとともに、生活力の向上を図る。 ○安心安全に生活するための行動や緊急時の安全確保に関する行動について確認し、舎生が実行できるようにする
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や学校と情報交換を密にし、連携を図りながらスモールステップの目標を設定し取り組む。 ○舎生が健康で安心できる生活を送るための対策をとるとともに、緊急時にスムーズな対応ができるように宿直時の体制確認や様々な想定 of 訓練を重ねる。
		教育支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のセンター的機能の充実を図るとともに、適切な就学につながる情報提供や教育相談を行う。 ○個別の教育支援計画を活用して、関係諸機関との連携を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ○就学・進学 of 仕組みについての理解を促すとともに、保護者の心情を理解した教育相談に努める。 ○特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援や障害に関する様々な相談に対応できるよう、研修会等への参加や事例検討を行い、専門性 of 向上に努める。 ○個別の教育支援計画を使って、支援 of 具体的な内容や合理的配慮などについて関係諸機関と情報交換し、効果的な支援が行えるようにする。
		図書情報 (学校 H P)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○本校 of 教育活動への理解啓発を図るため、日々 of 授業や行事等での活動の様子を含めた様々な情報を積極的に発信する。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ○各学部や分掌と連携し、日々 of 学習の様子や情報を発信する。 ○学校HP of 更新を積極的に行い、必要な情報を発信する。
		PTA 活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA活動 of 在り方を見直し、活性化を図る。
			計画	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA役員と担当教員との連絡・調整を密にし、無理のない活動内容 of 検討、工夫を行う。 ○PTA活動を通して、児童生徒に係る課題を、保護者と教員とで一緒に考える。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 - 図書情報部	
重点項目	学習活動 - ICT 機器活用 -
重点課題	「ICT 機器活用力の向上」
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・校内会議資料や保護者配付プリント等の電子化が進んでいない。 ・ICT 機器活用に関連する外部の研修会に参加しても、事例の多くが Google Workspace for Education を用いたものであり、校内で使用したり、教員間で情報を共有したりすることができていない。 ・iPad 利用の多くが画像や動画、アプリの利用にとどまっており、授業への活用が進んでいない。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の ICT 活用指導力調査計 16 項目において、「できる」（4 段階中一番上）と回答した教員の割合が 70% 以上。（R6 は「できる」と回答した教員の割合が 16 項目全体平均 46.8%） ・Google classroom を用いて、保護者配付プリントのデジタル配信及び Form を用いたアンケートへの回答を合わせて年間 15 回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○業務の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ・Google classroom を用いて、保護者配付プリントのデジタル配信及び教員の各会議資料を電子化する。また、申請書の一部を電子決裁化する。 ○教員の ICT 機器活用力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の ICT 機器活用力を図るアンケート調査を 5 月及び 12 月に行う。 ・教員の課題状況に応じた研修会を実施する。 ・各授業等の Google classroom を開設し、授業における意見の共有や課題の提出などの機能を用いた実践を行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 富山総合支援学校アクションプラン - 2 - 保健部	
重点項目	学校生活 - 保健管理 -
重点課題	「歯と口の健康づくり」
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、例年 5 月と 10 月に歯科検診を行っており、虫歯だけでなく、歯垢や歯肉炎を指摘される児童生徒が多くいる。このことから、昨年度、学校保健課題で「歯と口の健康づくり」に取り組み、養護教諭による歯みがき指導や歯磨きチェックシートの配付などを実施したことで、10 月の歯科検診では 5 月に比べ、児童生徒の虫歯や歯垢、歯石にある程度の改善がみられた。また、昨年度の学校保健委員会では、委員の方から「児童生徒が主体的に取り組み活動計画しておく」と良い。「学校医の先生のアドバイスを保護者に分かりやすく伝える」と良い。」などの意見をいただいた。そこで、学校医の専門的意見を参考にしながら、児童生徒、保護者、教員が連携して、歯と口の健康づくりに取り組み、児童生徒の歯と口の健康をより高めていきたいと考えた。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯の健康を守るための学習や家庭への啓発プリントの配付を 10 回以上 ・学校での取り組みが良かったと答えた児童生徒、教員、保護者の割合 70% 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保健給食委員会と養護教諭で歯磨きチェックシート等を作り、歯みがきの呼び掛けをする。 ・栄養教諭が、歯を丈夫にする食べ物について栄養指導する。 ・学校医や養護教諭からアドバイスを受けて、歯と口の健康づくりに生かす。 ・歯科実習生による歯みがき指導を受ける。 ・「歯と口の健康づくり」に関する啓発プリントを配付する。 ・児童生徒、保護者、教員に向けたアンケートで、歯みがきへの意識調査をする。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）